

# 日本国際理解教育学会

## 第28回研究大会プログラム

Japan Association for International Education  
28th Annual Conference, Miyagi University of Education

主催：日本国際理解教育学会

共催：宮城教育大学

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県国際化協会、仙台観光国際協会

新緑の仙台より会員の皆様方に、ご挨拶申し上げます。

この度、日本国際理解教育学会第28回研究大会を下記の日程で開催することになりました。

国際理解教育学会の研究大会として、多文化共生教育、開発教育、グローバルシティズンシップ教育、ESDなど多様な分野にかかわる内容が議論されます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

第28回研究大会実行委員長 市瀬 智紀

副委員長 石森 広美

大会会場：宮城教育大学（上杉地区・青葉山地区）

大会日程：2018年6月15日（金）・16日（土）・17日（日）

第1日目 6月15日（金）宮城教育大学附属小学校（上杉地区）										
				13:10	13:40			15:40		
				公開 受付	道徳・国際理解公開授業 および検討会					
第2日目 6月16日（土）宮城教育大学（青葉山地区）										
	9:30	10:00		12:00	13:00	14:00		16:30	17:00	18:30
	学会 受付	自由研究発表		昼食	総会	公開シンポジウム		移動等	情報交換会	
第3日目 6月17日（日）宮城教育大学（青葉山地区）										
	9:00	9:30		12:00	13:00			16:00		
	学会 受付	自由研究発表		昼食	①特定課題研究 ②“実践者のための”論文の書き方コーチング					

連絡先：お問い合わせ先：日本国際理解教育学会第28回研究大会実行委員会

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

E-mail：jaie2018@ml2.miyakyo-u.ac.jp

## 公開授業・検討会（宮城教育大学附属小学校）

6月15日（金） 13:40～15:40（階段教室）

### 「異己」理解共生授業プロジェクトー公開授業・検討会

「異己」とは、価値多元化社会における異なる価値観や立場を持つ相手を意味しています。これまで日本国際理解教育学会（国際委員会）は、異なる文化間で生じるコンフリクトの理解とその解決を目指して「異己」理解共生授業プロジェクトに取り組んできました。当日は、中国北京史家小学校と宮城教育大学附属小学校との間で進めてきた交流の成果をベースにした5年生の授業を公開いたします。授業後は学会員、海外からのゲスト、一般参加者との間で、授業検討会とディスカッションを予定しています。

公開授業・授業者：堀之内 優樹（宮城教育大学附属小学校）

検討会司会：釜田 聡（上越教育大学）

- ・公開授業 13:40～14:30
- ・休憩 14:30～14:40
- ・協議 14:40～15:40



宮城教育大学附属小学校（上杉地区）

住所：〒980-0011 仙台市青葉区上杉六丁目4-1

# 6月16日（土曜日）

## 自由研究発表 第1分科会～第7分科会（10:00～12:00）

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

### ◆第1分科会（231 教室）

司会：成田 喜一郎（自由学園）・田中 泉（広島経済大学）

（1）バンコクで子育てする日本人父親の教育観

渡辺 幸倫（相模女子大学）

（2）中学校社会科における「多文化共生都市ビジョン」に焦点をあてた授業実践

中澤 純一（中央大学・院生/浜松学院中学校）

（3）多様性を尊重する教育実践

土田 千愛（東京大学・院生）

（4）小学校における哲学対話による多様性教育

幸田 隆（豊田市立東保見小学校）

### ◆第2分科会（232 教室）

司会：桐谷 正信（埼玉大学）・奥平 穰士（蔵王町立永野小学校）

（1）小学校社会科における東南アジア理解に関する一考察

米井 慎一（学習院初等科）

（2）「食」から学ぶ異文化理解教室 その2《牛たん》

長谷川 功（桐蔭学園中学校高等学校）

（3）小学校第2学年における「はだいろ」から考える国際理解教育 - 「人種」をめぐる授業実践 -

東 優也（海老名市立東柏ヶ谷小学校）

（4）音楽することによる文化と国際理解教育

小野寺 美奈（早稲田大学）

### ◆第3分科会 (233 教室)

司会：釜田 聡 (上越教育大学)・渋谷 真樹 (奈良教育大学)

(1) 滞日ムスリム児童の教育支援に関する研究

ー広島県東広島市小学校でのエスノグラフィーからー

松井 理恵 (広島大学・院生)

(2) 教職養成課程学生の考えるムスリム児童との異文化間共生方法

ーハラールとお祈りに関する対応事例への検討ー

奥西 有理 (岡山理科大学)

(3) 韓国における「世界市民性教育」に関する研究

神田 あずさ (日本国際理解教育学会会員)

(4) 日中 ESD 実践指導の相違点

徐 桜子 (大阪府立大学・院生)

### ◆第4分科会 (221 教室)

司会：永田 佳之 (聖心女子大学)・松倉 紗野香 (埼玉県上尾市立東中学校)

(1) ASP net 校における国際平和に関する学習活動の実践研究

池田 花笑子 (兵庫教育大学教職大学院・学生)

(2) 中学校におけるグローバルシティズンシップ教育の可能性

松倉 紗野香 (埼玉県上尾市立東中学校)

(3) A Critical Dialogue of EIU with Korean Unification Education

Kang Soon Won (Hanshin University)

(4) Developing the teaching efficacy scale on global citizenship education:

An Interim Report

Daehoon JHO (Sungshin Women's University)

Moonsun CHOI (Post-Doctoral Fellow, Ohio State University)

### ◆第5分科会（223 教室）

司会：石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）・山中 信幸（川崎医療福祉大学）

（1）SDGs を中心軸とした授業設計と評価の枠組み—授業実践事例から—

石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）

（2）「活動理論からの学びの分析」活動理論からの学びの分析

～中学校における国際理解教育実践から～

菊地 恵美子（仙台育英学園／早稲田大学大学院）

（3）変容的学習としての開発教育における教材開発の原理

山中 信幸（川崎医療福祉大学）

（4）開発教育における学習課題としての開発課題の捉え方の再検討

南雲 勇多（東日本国際大学）

### ◆第6分科会（224 教室）

司会：中山 京子（帝京大学）・横田 和子（目白大学）

（1）博物館企画展示「南の楽園マリアナ諸島の真実」を創る —大学における国際理解教育実践—

中山 京子（帝京大学）

東 優也（海老名市立東柏ヶ谷小学校）

（2）「絵を通じての友好」日本&マレーシアで学社融合・多機関協働で30年

尾池 富美子（認定・埼玉県指定特定非営利活動法人メイあさかセンター）

（3）〈ことば・からだ・アート〉による難民問題学習へのアプローチ（1）

佐藤 仁美（目白大学）

横田 和子（目白大学）

岩坂 泰子（広島大学）

岡本 能理子（東京国際大学）

當銘 美菜（目白大学）

（4）〈ことば・からだ・アート〉による難民問題学習へのアプローチ（2）

横田 和子（目白大学）

佐藤 仁美（目白大学）

岩坂 泰子（広島大学）

岡本 能理子（東京国際大学）

當銘 美菜（目白大学）

◆第7分科会 (227 教室)

司会：見世 千賀子 (東京学芸大学)・太田 満 (共栄大学)

(1) 21 世紀型能力をどう評価するか

ーASEAN5 か国の日本語教師たちによるルーブリック作成の試みー

築島 史恵 (国際交流基金日本語国際センター)

二瓶 知子 (国際交流基金日本語国際センター)

木谷 直之 (国際交流基金日本語国際センター)

(2) ものづくりと手作り玩具を通じた国際理解

～マレーシアの小中高生との交流から～

木村 慶太 (立命館宇治中学校・高等学校)

山田 幸生 (関西大学初等部)

手嶋 将博 (文教大学)

今田 晃一 (文教大学)

(3) シンガポールの「世界遺産教育」からの示唆ーMOE と NPB の思惑からー

金野 誠志 (鳴門教育大学)

.....

**総 会** : 230 教室 (13:00~14:00)

## 公開シンポジウム A

6月16日(土) 14:00~16:30 (220 教室)

ユネスコが推進するグローバルシティズンシップ教育 (GCED) と国際理解教育

Global Citizenship Education (以下 GCED) は、2012 年 9 月に国連事務総長が開始した Global Education First Initiative (GEFI) の三つの優先分野の一つに挙げられたのを契機に、ユネスコでも取組が強化され、目下、教育の質を向上させるものとして ESD とともに明記されています。ユネスコバンコク事務所では、アジア太平洋地域における GCED の普及をはかるため、2017 年からワークショップを重ねてきました。本公開シンポジウムでは、ユネスコバンコク事務所の取組みを契機として、日本で昨年 10 月 28 日に開催された、Educators' Summit for SDGs 4.7 - For fostering our Global Citizenship- の成果を踏まえ、国際理解教育学会の場で研究者・実践者と基本的なコンセプトやカリキュラム、実践を共有する場を設け、GCED のさらなる展開の方策を考えます。

司 会 : 石森 広美 (宮城県仙台二華高等学校)

コメンテーター: 小林 亮 (玉川大学教育学部)

パネリスト:

ユネスコバンコク事務所が展開するグローバルシティズンシップ教育 (仮)

Tang Lay Chang (ユネスコバンコク事務所・アジア太平洋地域教育局)

グローバルシティズンシップ育成を実現する GiFT の教育プログラムの成果

辰野 まどか (一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT))

インターネット社会におけるグローバルシティズンシップ教育の可能性について

前川 マルコス (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科)

学校と地域をつなぐグローバルシティズンシップ教育の実践のあり方

阿部 和彦 (仙台白百合学園中学校・高等学校)

## 公開シンポジウムB

6月16日(土) 14:00~16:00 (230 教室)

教室のマイノリティとしての外国人児童生徒の視点から考える国際理解教育

地域社会において移民やその子弟の定住化が進んでいる現実の中で、その認識が広まらないのは、マジョリティの側の多文化共生への認識が進んでいないことが指摘できます。本シンポジウムでは同じ教室にいる外国人の児童生徒と、どうコミュニケーションをとり、関係をつくっていったらいいのかに焦点をあて、外国人児童生徒支援の成果やネットワーク形成の取組みを紹介しながら、学校や教室における多文化共生を意識した国際理解教育を進展させるためのさらなる方策を考えます。

司 会： 奥平 穰士（宮城県蔵王町立永野小学校）

コメンテーター：林 敏博（椋山女学園大学/名古屋国際センター）

パネリスト：

日系人社会で生きた二重言語の経験から

森野 カロリナ（外国人の子どもサポートの会）

多様な言語文化背景をもつ子どもたちと教室のダイバーシティをつくる

齋藤 ひろみ（東京学芸大学・日本語教育学会）

学校・教室と地域をつなぐ一求められるコーディネーターの視点

菊池 哲佳（仙台観光国際協会）

## 情報交換会

6月16日(土) 17:00~18:30 (萩朋友会館大集会室)

地域定住外国人の社会貢献と社会参画を考える

宮城県内で多文化理解と社会貢献の活動をすすめている宮城華僑華人女性联谊会などの複数の定住外国人の団体が、民族舞踊や民族楽器演奏を披露します。会場でのそれらの方々との交流を通して、公開シンポジウムテーマBに続き、地域における多文化共生の現状や課題について考える機会とします。



# 6月17日（日曜日）

自由研究発表 第8分科会～第15分科会（9:30～12:00）

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

## ◆第8分科会（231 教室）

司会：山西 優二（早稲田大学）・浅井 孝司（ヒューマンアカデミー株式会社）

（1）学校・地域における外国人児童生徒教育

—名古屋国際センターでの取組から見える課題とサポート—

林 敏博（椋山女学園大学/名古屋国際センター）

（2）小学校低学年における多文化共生教育実践—外国にルーツを持つ児童に寄り添って—

山田 文乃（兵庫教育大学・院生）

（3）地域社会における国際理解の増進

浅井 孝司（ヒューマンアカデミー株式会社）

（4）沖縄の民話における多文化共生 日本社会における多文化共生教育への示唆

孫 美幸（大阪大学）

## ◆第9分科会（232 教室）

司会：南 美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校）・奥平 穰士（蔵王町立永野小学校）

（1）複言語・複文化主義に基づく英語教育

南 美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校）

（2）国際交流活動を生かし生き生きとコミュニケーションする児童をめざして

奥平 穰士（蔵王町立永野小学校）

（3）小学校英語を活性化させる国際交流プロジェクト

清水 和久（金沢星稜大学）

（4）「テーマ学習と小学校外国語の授業」～児童の自己肯定感を高めるための取り組み～

杉本 孝美（東大阪大学）

（5）ことばに着目した国際理解教育の内容編成に関する研究

周 勝男（上越教育大学・院生）

## ◆第10分科会 (233 教室)

司会：石森 広美 (宮城県仙台二華高等学校)・森茂 岳雄 (中央大学)

(1) 他者の文化を理解するための学びのプロセス

—IB 校における「異己」概念に基づいた授業実践を事例に—

津山 直樹 (中央大学・院生)

(2) 地域における多文化共生をめざす SGH の授業実践—『異文化理解』の授業を事例に—

後藤 範子 (埼玉県立不動岡高校)

(3) 都立高校における国際理解教育の実践—海外学校間交流の軌跡—

藤野 明彦 (都立杉並総合高校)

(4) 大阪府立高等学校改革におけるグローバル教育の位置づけと諸課題

原田 恵子 (立命館大学・院生)

(5) 高校生を対象としたグローバル人材育成プログラムが学習者のグローバル意識と教科学力に与える影響

岩見 理華 (神戸大学附属中等教育学校)

勝山 元照 (神戸大学附属中等教育学校)

## ◆第11分科会 (236 教室)

司会：橋崎 頼子 (奈良教育大学)・奥平 大和 (黒川郡大郷町立大郷小学校)

(1) 自己アイデンティティの複数性の認識を促す道德教育実践

橋崎 頼子 (奈良教育大学)

小嶋 祐伺郎 (奈良教育大学附属中学校)

(2) 中国における国際理解教育地方カリキュラムの学習領域と課題

—北京、深セン国際理解教育教科書の分析を通して—

鄒 聖傑 (中央大学大学院・院生)

(3) 持続可能な農業と社会へ向けた試みと提案～次世代農業の魅力を学ぶ若者向け映像の制作～

園部 由美子 (東京工科大学・学生)

飯沼 瑞穂 (東京工科大学)

(4) エシカルライフを Think Globally Act Locally

奥平 大和 (黒川郡大郷町立大郷小学校)

(5) 「総合的な学習の時間」における世界とのつながりを意識した小学校の地域学習

原 瑞穂 (上越教育大学大学院)

五十嵐 理恵 (柏崎市立二田小学校)

### ◆第12分科会（221 教室）

司会：手嶋 将博（文教大学）・藤原 孝章（同志社女子大学）

- （1）個人別態度構造分析による留学前後における異文化観の変容

前田 ひとみ（目白大学）

- （2）海外研修から見る大学生の国際意識の変容

～第28回アメリカ学校教育研修の事前・事後アンケートから～

手嶋 将博（文教大学）

ミクーチ淑美（Ripple 生涯教育研究所）

- （3）一緒にスラムで行動するー明石高専・テラサール協同スタディツアーの持つ可能性ー

荒川 裕紀（明石工業高等専門学校）

- （4）アフリカにおける実践型プログラムの成果と課題

山崎 瑛莉（上智大学）

- （5）留学における学びとその継続性

服部 圭子（近畿大学）

高橋 朋子（近畿大学）

武知 薫子（近畿大学）

酒匂 康裕（近畿大学）

### ◆第13分科会（223 教室）

司会：宇土 泰寛（椋山女学園大学）・石川 一喜（拓殖大学）

- （1）地球規模課題と国際理解教育：気候変動教育からの示唆

永田 佳之（聖心女子大学）

- （2）学校・大学・企業が連携した水・気候変動教育の実践

宇土 泰寛（椋山女学園大学）

- （3）SDGs を通した学び

石川 一喜（拓殖大学）

- （4）幸福に着目したSDGsの整理についての一考察

中澤 静男（奈良教育大学）

- （5）SDGs をテーマに取り組んだ学園祭における生徒の意識変容

～社会参画に向けて、「知る」「伝える」アクションの意義～

織田 雪江（同志社中学校・高等学校）

#### ◆第14分科会(224教室)

司会：住田 昌治(横浜市立永田台小学校)・中山 博夫(目白大学)

(1) 対話を重視したESDの授業実践

森田 育志(神戸大学附属中等教育学校)

(2) 壁を越えるためのホールスクールアプローチ

住田 昌治(横浜市立永田台小学校)

(3) ドイツの乳幼児期におけるESDの取り組み

木戸 啓絵(岐阜聖徳学園大学短期大学部)

(4) 一人ひとりを大切にす保育の自明性を問い直す：ESDの視点から

曾我 幸代(名古屋市立大学)

#### ◆第15分科会(226教室)

司会：伊井 直比呂(大阪府立大学)・市瀬 智紀(宮城教育大学)

(1) 公立中学校における外部連携の取組～校内研修の取組を例に～

松倉 紗野香(埼玉県上尾市立東中学校)

山崎 瑛莉(上智大学グローバル教育センター)

(2) グローバルな教育経験による教科指導の資質・能力の向上の可能性の検証

石坂 広樹(鳴門教育大学)

坂井 武司(京都女子大学)

小澤 大成(鳴門教育大学)

田村 和之(鳴門教育大学)

赤井 秀行(堺市立竹城台小学校)

(3) グローバル・アクション・プログラム(GAP)原則に基づく教育実践臨場研修とその理論  
—GAP2 GAP5を中心として—

伊井 直比呂(大阪府立大学)

(4) 「ESD授業」の実践と学習者の変容—これから求められる持続可能な教員像—

中井 精一(大阪教育大学)

## 特定課題研究

6月17日(日) 13:00~16:00 (230・233・236 教室)

国際理解教育における理念研究、方法研究の現段階

—プロジェクトの取り組みと課題—

不確実性の時代と言われる昨今、地球規模の環境問題や不寛容という社会問題がこれまで以上に深刻化し、国際理解教育が目指してきた理念の重要性はますます増していると言えます。新たな時代状況において、その理念および方法を捉え直していくことは喫緊の課題と言えるでしょう。こうした意識のもとに、研究・実践委員会では、3本の「この指とまれプロジェクト」をスタートさせました。1年目は基本的な情報収集や基礎研究を行い、2年目は学校や地域での実践を意識した研究を公開研究会やワークショップを通して展開してきました。本年度の特定課題研究では、「国際理解教育における理念研究、方法研究の現段階—プロジェクトの取り組みと課題—」というテーマのもとに、これまでの2年間にわたる3つの分科会の成果と課題を共有し、さらに参加型ワークショップと全体討議を通して会員の皆様のご意見を今後の研究に活かしていく機会とします。

### 第一部 全体会／趣旨説明

趣旨説明

各プロジェクトの概要

永田 佳之 (聖心女子大学)

渡部 淳 (日本大学)

山西 優二 (早稲田大学)

宇土 泰寛 (椋山女学園大学)

### 第二部 分科会／ワークショップ

① 難民問題から国際理解教育を問う

② SDGs時代の水・気候変動教育を問う

### 第三部 全体会／シェアリング

## 紀要編集委員会

6月17日(日) 13:00~16:00 (227教室)

### “実践者のための”論文の書き方コーチング

優れた実践が公開されることなく、現場にうずもれていることが多々あります。実践を記録（実践研究論文や実践研究ノート等）として残し、またその成果を広く学会で共有することは、実践を重視してきた国際理解教育学会の発展にとって極めて重要であると考えます。現状では、実践内容は意義深いものであっても、論文としての作法や体裁が充分整っていないために掲載に至らないケースや、論文としての作法や体裁がよくわからないため、論文を執筆し紀要に投稿することを躊躇される方も多くいらっしゃると思います。そのような会員向けに、紀要編集委員による「“実践者のための”論文の書き方コーチング」を開催いたします。今回は、「実践研究ノート」（入門編）と「実践研究論文」（発展編）に分けて行う予定です。

司 会：桐谷 正信（埼玉大学）

趣旨説明：石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）

## 大会参加費・懇親会費・昼食・宿泊施設等

本大会への参加申し込みは、事前案内において、学会ホームページ掲載のオンラインフォームからお願いいたしております (<https://goo.gl/forms/OEBj7mexmYQLBOho2>) (2018年5月11日(金)締め切り)。大会参加費、情報交換会参加費は、所定の振込先へお振込み願います。5月11日(金)を過ぎてからお振込みをされた方は、「振込受領書」等の証明書類を受付にてご提示ください。

振込先：(銀行名・支店名) みずほ銀行・仙台支店(723)  
(種 別) 普通  
(口座番号) 4997887  
(加入者名) 日中韓3か国学生会議(ニツチユウカンサンカコクガクセイカギイ)

### (1) 大会参加費

・参加費：事前振込： 学生・院生 2,500円 一般 3,500円  
当 日： 学生・院生 3,000円 一般 4,000円

### (2) 情報交換会

・参加費：事前振込： 学生・院生 3,000円 一般 3,500円  
当 日： 学生・院生 3,500円 一般 4,000円

※会場準備の関係がありますので、事前のお申し込みをお願いいたします。

### (3) 昼食

・6月16日(土)は、大学構内の食堂・売店をご利用いただけます。  
17日(日)は、大学構内の食堂・売店はありません。学外で購入の上持参願います。

### (4) 宿泊施設

宿泊施設の予約は各自でお願いいたします。仙台駅周辺および地下鉄東西線沿線のホテルが便利です。仙台駅周辺および地下鉄東西線沿線ホテル例；

- ・ホテルメトロポリタン仙台
- ・コンフォートホテル仙台西口
- ・ホテルJALシティ仙台
- ・ホテルモンテエルマーナ仙台
- ・天然温泉 萩の湯 ドーミーイン仙台駅前
- ・リッチモンドホテルプレミア仙台駅前
- ・仙台ワシントンホテル
- ・ホテルモントレ仙台
- ・ライブラリーホテル仙台駅前
- ・ホテルクラウンヒルズ仙台青葉通り、など。

## アクセス方法

○宮城教育大学 (<http://www.miyakyo-u.ac.jp/>)

交通アクセスの詳細については、本学ホームページ「宮城教育大学交通アクセス」をご覧ください。

### 仙台までの交通機関

#### ■東北新幹線



#### ■空路（仙台空港）





■6月15日 宮城教育大学附属小学校（上杉地区）

<市営バス>

仙台駅前【17番】【18番】【19番】乗り場から

「140 県庁市役所経由 旭ヶ丘駅」「120 県庁市役所経由 鶴ヶ谷七丁目」「110 県庁市役所経由 東仙台（営）」行き乗車 「附属小学校前」下車（所要時間 約15分）

<JR>

仙山線「東照宮」または「北仙台」駅から徒歩約10分

<地下鉄 南北線>

「北四番丁」または「北仙台」駅から徒歩約10分



■6月16日・17日 宮城教育大学（青葉山地区）

<地下鉄 東西線>

「仙台」駅から「八木山動物公園」行き乗車、「青葉山」駅下車（乗車時間9分、料金250円）

「青葉山」駅「北1出口」から大学正門まで徒歩約15分

※「青葉山」駅の「北1出口」から外に出て、歩道を右方向へ進みます。そのまま歩道を歩いて行くと宮城教育大学に到着します（約650m）。

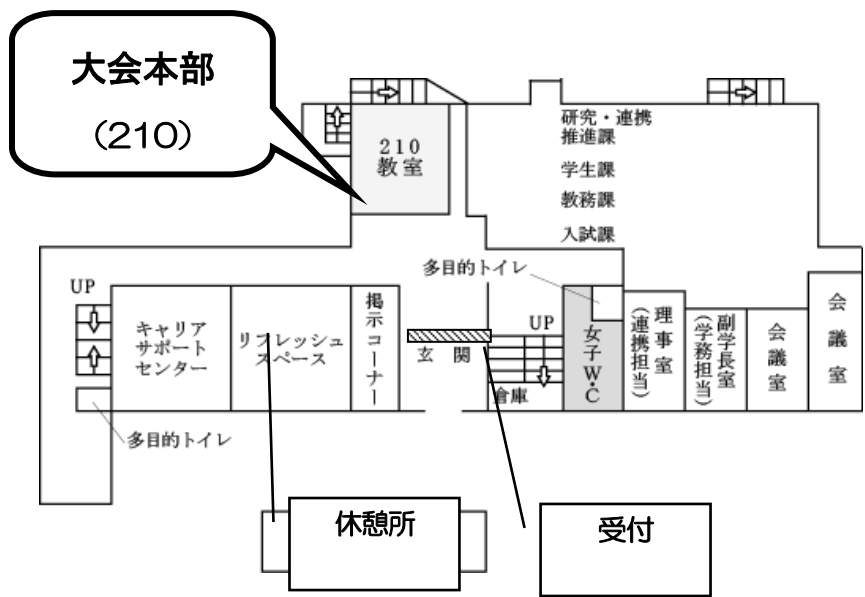


# 会場案内図

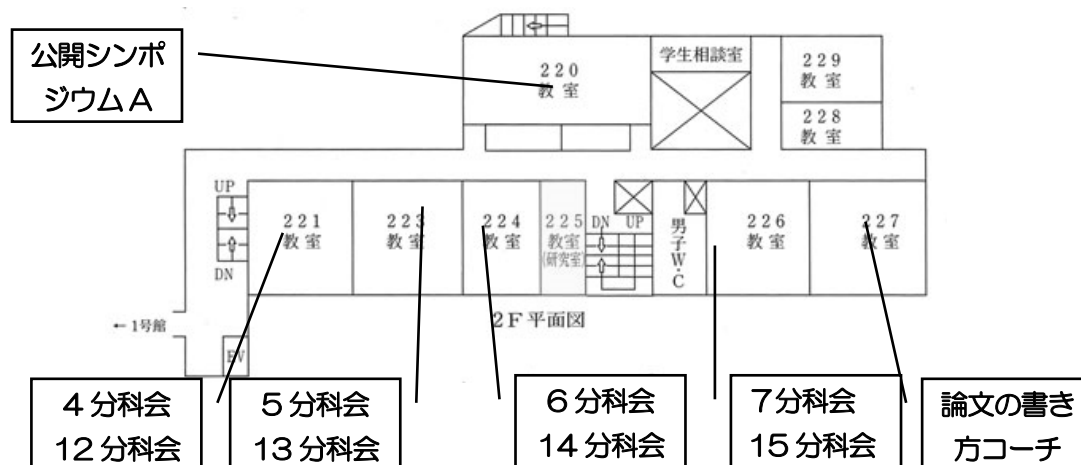
6月16日(土)・17日(日) 宮城教育大学



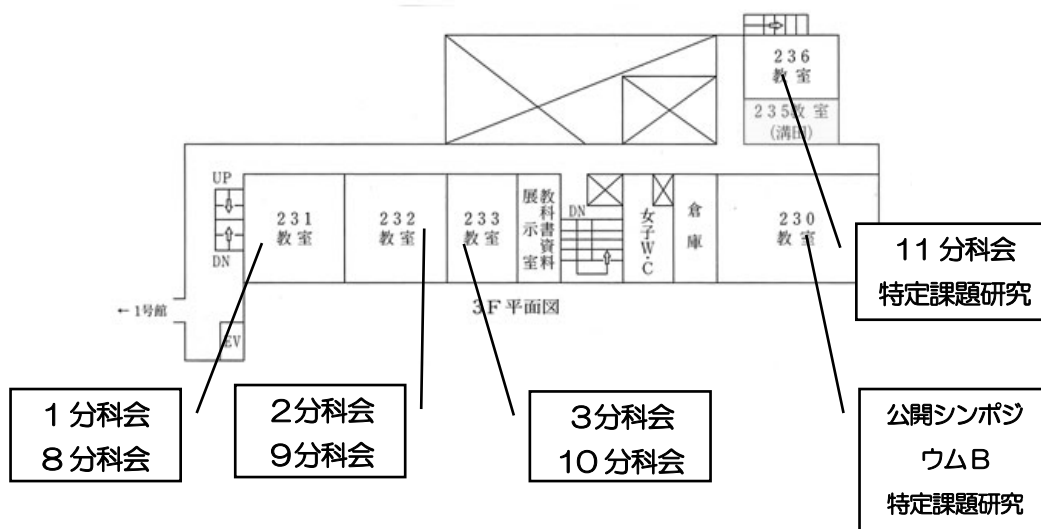
## 2号館1階



## 2号館2階



## 2号館3階



\*万一当日の状況で教室変更等ございましたら、ご容赦ください。